

平成20年度中間決算の概要と第10次中期経営計画
「Dream TEN ～新たなる挑戦」の進捗状況
(平成20～22年度)

2008年11月26日
頭取 中西勝則

Dream with you.



静岡銀行



目次

I 平成20年度中間決算の概要

平成20年度中間決算の状況	2
グループ会社の状況	3
貸出金の状況	4
与信費用	5
不良債権の状況	6
特定業種の状況	7
有価証券の状況①	8
有価証券の状況②	9
預金等の状況	10
預り資産の状況	11
手数料収益	12
預貸金利回りの状況	13
リスク資本配賦の状況	14
自己資本比率の状況	15
株主還元の状況	16

II 平成20年度下半期の取組み

静岡県経済動向	17
第10次中期経営計画 第1年度の経営目標	18
法人部門の取組み	19
地域密着型金融への取組み	20
個人部門の取組み	21
フロント業務特化型店舗 への取組み	22
経費および投資・人員計画	23
平成20年度の業績予想	24

ご参考

静岡県経済の強み	25～26
----------	-------

I 平成20年度中間決算の概要

Dream with you.



SHIZUOKA BANK

静岡銀行



平成20年度中間決算の状況

●減収となったものの、業務粗利益は拡大を続けている

・〔経常収益〕4期振り減収 ・〔業務粗利益〕5期連続増益、過去最高

●本業の利益水準をあらわす基礎的業務純益は5期連続の増益、過去最高

・〔業務純益〕3期振り減益 ・〔基礎的業務純益〕5期連続増益 ・〔経常利益〕2期連続減益 ・〔中間純利益〕3期振り減益

《静岡銀行単体の状況》

(億円、%)

	20年度 中間期	前年同期比	
		増減額	増減率
経常収益	1,015	△79	△7.2
業務粗利益	☆ 734	+16	+2.2
資金利益	☆ 641	+37	+6.2
役務取引等利益	84	△9	—
特定取引利益	9	△3	—
その他業務利益	△1	△10	—
(国債等債券関係損益)	△10	△9	—
経 費 (△)	403	+8	+2.0
基礎的業務純益 ※	☆ 341	+16	+5.1
一般貸倒引当金繰入額 (△)	27	+28	—
業務純益	304	△21	△6.4
臨時損益	△114	△118	—
うち不良債権処理額 (△)	45	△5	—
うち株式等関係損益	△76	△121	—
経常利益	191	△138	△42.1
特別損益	△5	+11	—
税引前当期純利益	185	△128	△40.8
法人税等 (△)	69	△53	—
中間純利益	116	△74	△39.1

(億円)

〔資金利益内訳〕

	20年度 中間期	前年同期比
国内業務部門	593	+6
うち貸出金利息	590	+33
有価証券利息配当金	108	△3
預金等利息 (△)	102	+24
国際業務部門	48	+31

〔利ざや〕

(%)

預貸金レート差	1.68	△0.02
うち貸出金利回り	2.04	△0.06
預金等利回り	0.35	△0.05
有価証券利回り	1.84	△0.22

(億円)

〔株式等償却内訳〕

	減損処理額	前年同期比
株式等償却	78	+61
うち株式投資信託	61	+51
上場株式	16	+10
非上場株式	1	0

※基礎的業務純益＝業務純益＋一般貸倒引当金繰入額－国債等債券関係損益、☆過去最高



グループ会社の状況

(億円、%)

《連結決算の状況》	20年度 中間期	前年同期比	
		増減額	増減率
連結経常収益	1,152	△108	△8.5
連結経常費用 (△)	946	+39	+4.3
連結経常利益	207	△147	△41.5
連結中間純利益	117	△77	△39.7

●静岡銀行グループの連結決算は減収減益

- ・〔連結経常収益〕 4期振り減収
- ・〔連結経常利益〕 2期連続減益
- ・〔連結中間純利益〕3期振り減益

●グループ会社(連結子会社11社)は、経常収益225億円(前年同期比△21億円)、経常利益19億円(同△5億円)の減収減益

(億円)

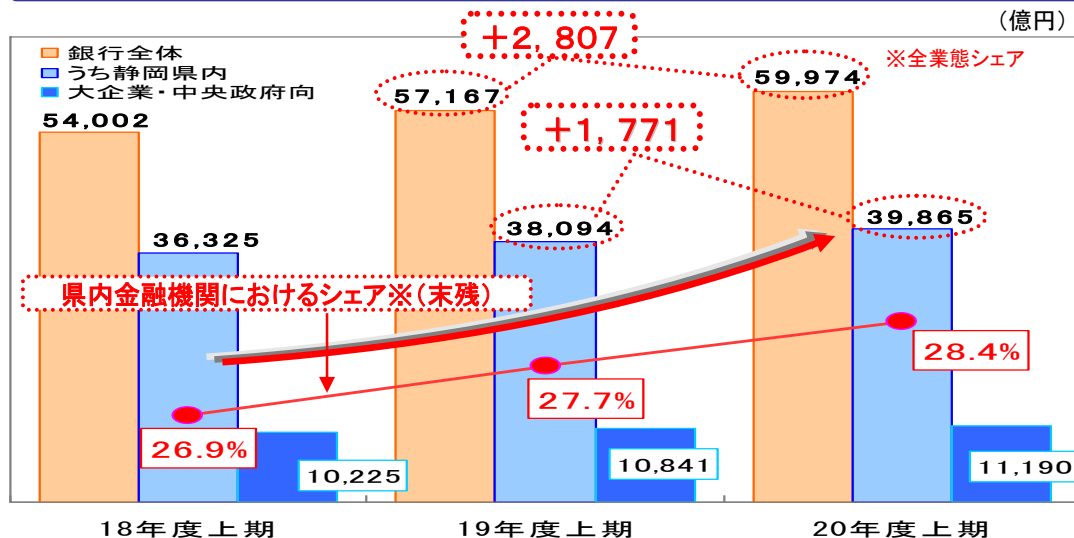
会社名	業務内容	経常収益	前年同期比	経常利益	前年同期比
静銀経営コンサルティング(株)	経営コンサルティング業務	2	0	1	0
静銀リース(株)	リース業務	101	△15	4	△3
静岡コンピューターサービス(株)	コンピューター関連業務、計算受託業務	28	△2	1	0
静銀信用保証(株)	信用保証業務	6	0	4	0
静銀ディーシーカード(株)	クレジットカード業務、信用保証業務	11	0	2	0
静岡キャピタル(株)	株式公開支援業務、中小企業再生支援業務	4	1	1	0
静銀ティーエム証券(株)	証券業務	16	△6	4	△4
欧州静岡銀行	銀行業務・証券業務	12	△4	1	0
静銀総合サービス(株)	労働者派遣業務等	18	0	0	0
静岡モーゲージサービス(株)	銀行担保不動産の評価・調査業務等	4	0	0	0
静銀ビジネスクリエイト(株)	為替送金・代金取立等の集中処理業務等	24	5	1	2
合 計 (11社)		225	△21	19	△5
静銀セゾンカード(株) ※	クレジットカード業務、信用保証業務	1	1	△5	△2

※持分法適用関連会社、平成19年4月開業



貸出金の状況

総貸出金残高（平残）の推移



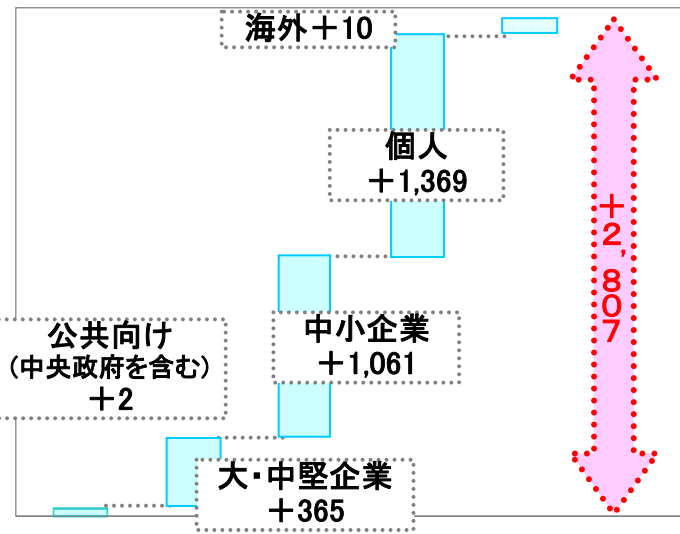
●20年度上期の総貸出金残高（平残）は59,974億円と前年同期比+2,807億円（年率+4.9%）の増加

- ・ 中小企業向け貸出金残高25,039億円
前年同期比+1,061億円（年率+4.4%）
- ・ 個人向け貸出金残高19,197億円
同+1,369億円（年率+7.7%）
- ・ 中央政府を含む公共向け貸出金残高1,455億円
同+2億円（年率+0.2%）

貸出金（平残）の増減内訳

【増減額内訳（前年同期比）】

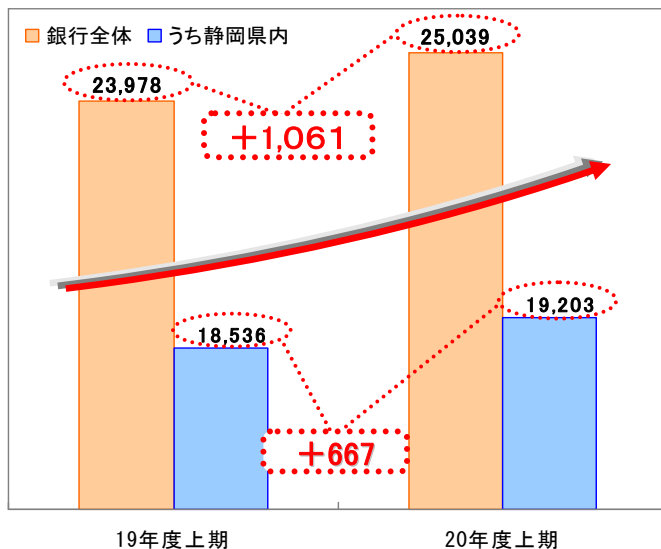
(億円)



うち中小企業向け貸出金残高（平残）の推移

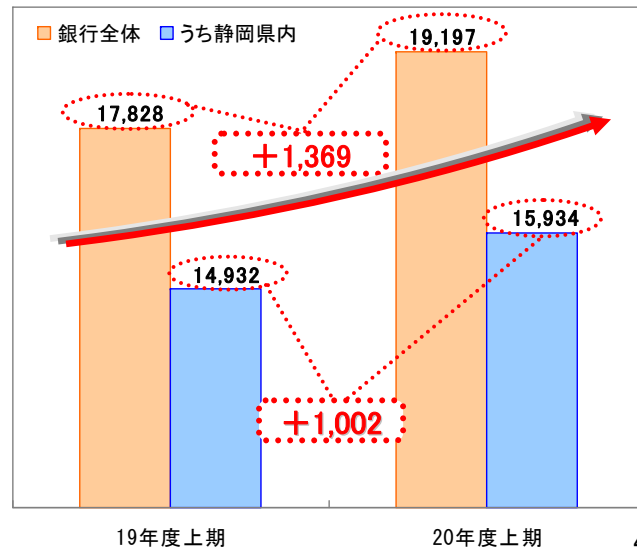
※地方公社を含まない

(億円)



うち個人向け貸出金残高（平残）の推移

(億円)





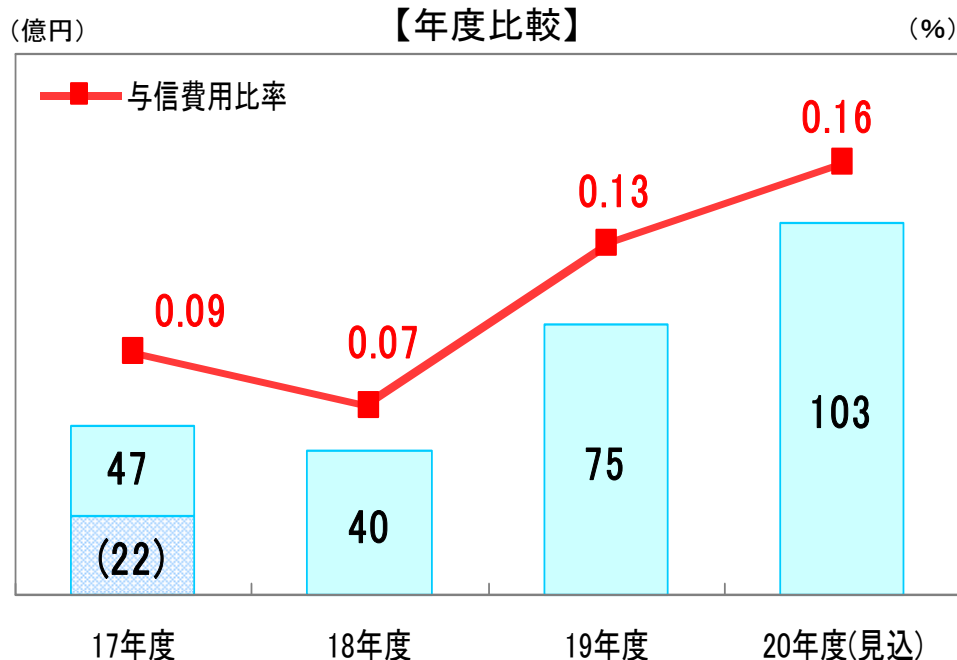
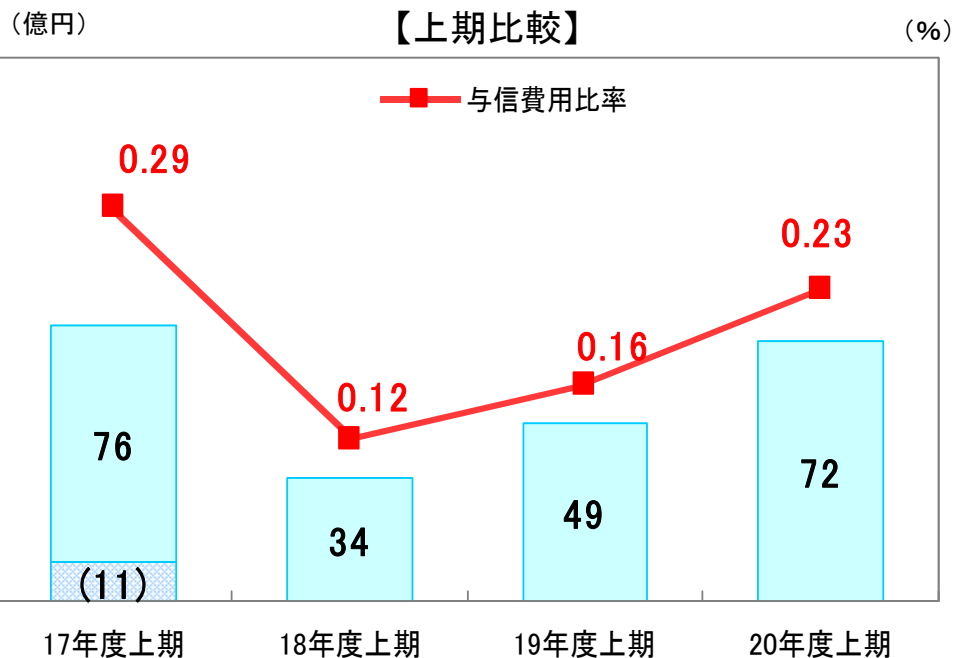
与信費用

与信費用：20年度上期 72億円（前年同期比+23億円）

- 一般貸倒引当金繰入額 27億円（前年同期比 +28億円）
- 不良債権処理額 45億円（ 〃 △5億円）
（うち個別貸倒引当金純繰入額39億円）

・債務者区分の変更等 66億円
・担保評価下落 5億円
・格上、回収等による
個別引当金取崩 △32億円
合計 39億円

与信費用・与信費用比率の推移



※与信費用 = 不良債権処理額 + 一般貸倒引当金繰入額 - 貸倒引当金取崩額、与信費用比率 = 与信費用 ÷ 貸出金平残
17年度上期および17年度の（ ）は、貸倒実績率の算定期間変更による特殊要因を控除した場合



不良債権の状況

リスク管理債権の状況（単体ベース）

●20年9月末のリスク管理債権の総額は1,990億円（20年3月末比+35億円）

●リスク管理債権の割合は3.27%（20年3月末比 Δ0.02ポイント）

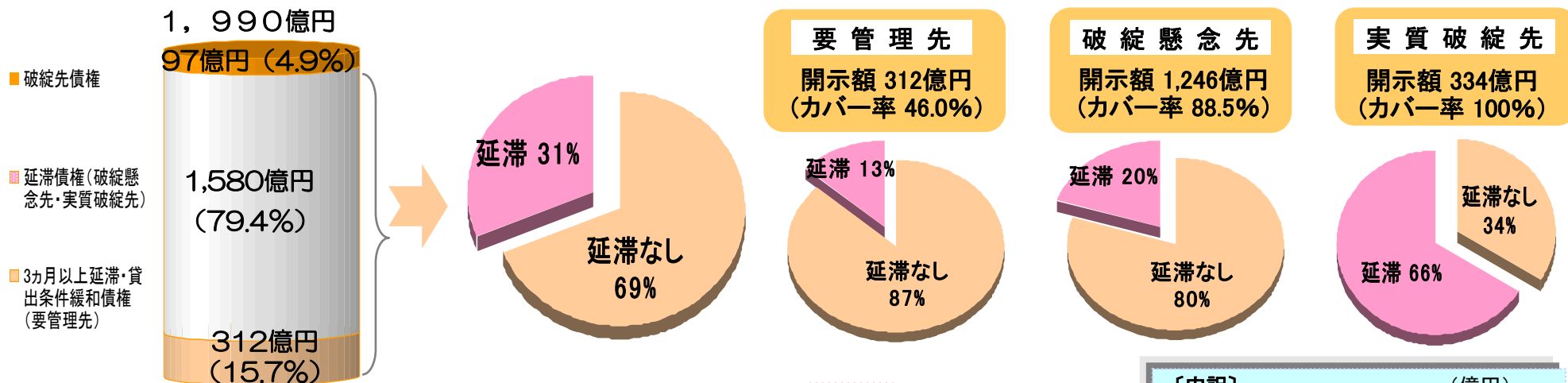
～部分直接償却を実施した場合の136億円と、信用保証協会の保証付貸出金の896億円を控除した場合のリスク管理債権総額は957億円、部分直接償却額を控除した総貸出金に占める割合は1.57%（20年3月末比+0.02ポイント）

～部分直接償却を実施した場合のリスク管理債権比率は3.05%（同▲0.01ポイント）

●カバー率84.32%（20年3月末比 Δ1.58ポイント）

- ・破綻懸念先以下 +6億円
- ・3カ月以上延滞債権
貸出条件緩和債権 +28億円

20年9月末リスク管理債権の内訳



不良債権のオフバランス化実績

	18年度	19年度	19年度上期	20年度上期
新規発生	+489	+693	+385	+351
オフバランス化 （うち破綻懸念先以下）	Δ715 (Δ604)	Δ706 (Δ600)	Δ298 (Δ251)	Δ316 (Δ271)
リスク管理債権	1,968	1,955	2,055	1,990

+35

【内訳】（億円）

要管理先	77
破綻懸念先	218
実質破綻先・破綻先	56

【271億円の内訳】（億円）

本人弁済・預金相殺	60
担保処分・代位弁済	116
格上げ	49
債権売却	42
直接償却	4



特定業種の与信の状況

- 特定業種(建設業、不動産業、物品賃貸業、貸金業・投資業等)の融資シェアはいずれも8%未満で、特定業種への与信集中はない
- 予測損失額(EL)は与信全体で73億円、特定業種のうち最も多い建設業でも8億円未満

事業性貸出に占める特定業種の状況

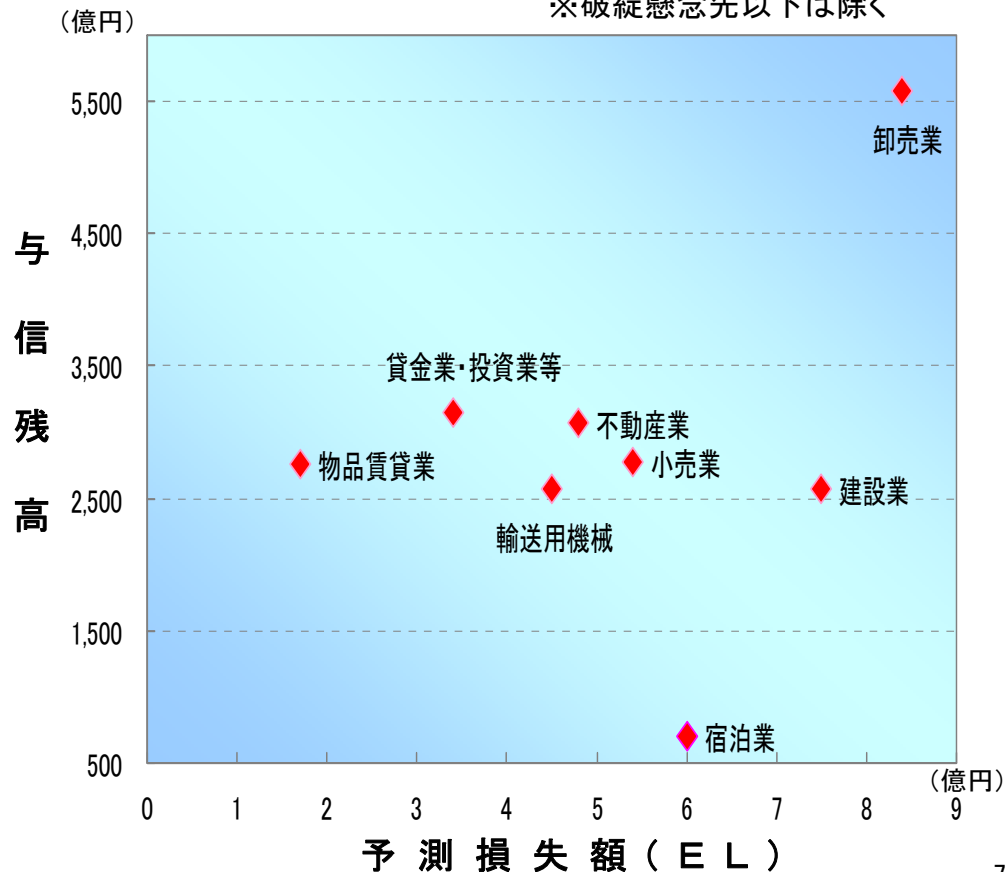
【与信残高(20年9月末)】

(億円、%)

		残高	構成比	前年同期比
全	体	44,866	100.0	+657
	卸売業	5,739	12.8	+8
	不動産業	3,266	7.3	△65
	貸金業・投資業等	3,172	7.1	+311
	小売業	2,960	6.6	+242
	建設業	2,840	6.3	△61
	物品賃貸業	2,763	6.2	+3
	輸送用機械	2,608	5.8	△117
	宿泊業	808	1.8	△18

【与信残高対予測損失額】

※破綻懸念先以下は除く

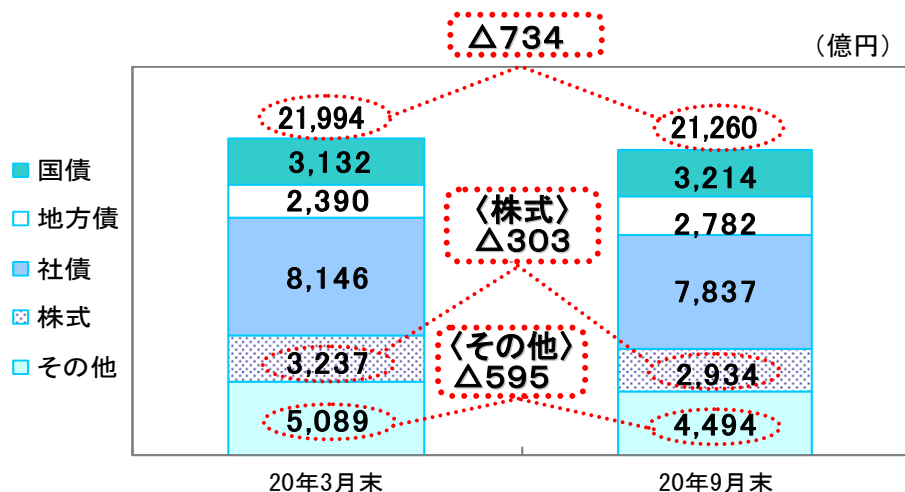




有価証券の状況①

- 20年9月末の有価証券残高は21,260億円と20年3月末比△734億円の減少
- 20年9月末の株式・債券・投資信託等の有価証券評価損益は+1,339億円と20年3月末比△423億円、うち株式評価損益は+1,448億円と20年3月末比△322億円の減少

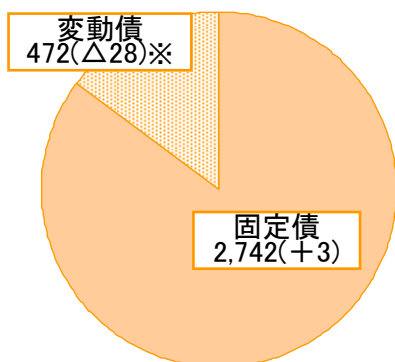
有価証券残高の推移



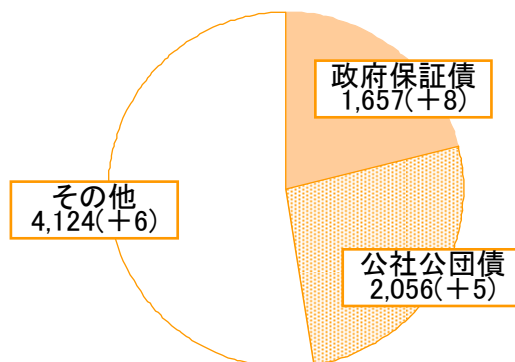
債券平均残存期間・有価証券評価損益の推移

	20年3月末	20年9月末
平均残存期間(円貨)	3.26年	3.40年
平均残存期間(外貨)	1.39年	2.18年
有価証券評価損益	1,762億円	1,339億円
うち株式	1,770億円	1,448億円
日経平均株価	12,525.54円	11,259.86円

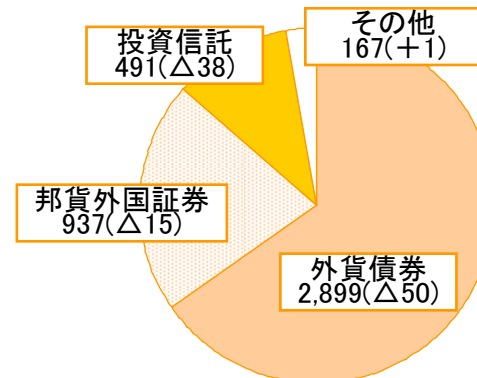
国債3,214億円の内訳



社債7,837億円の内訳



その他4,494億円の内訳



#()内は評価損益

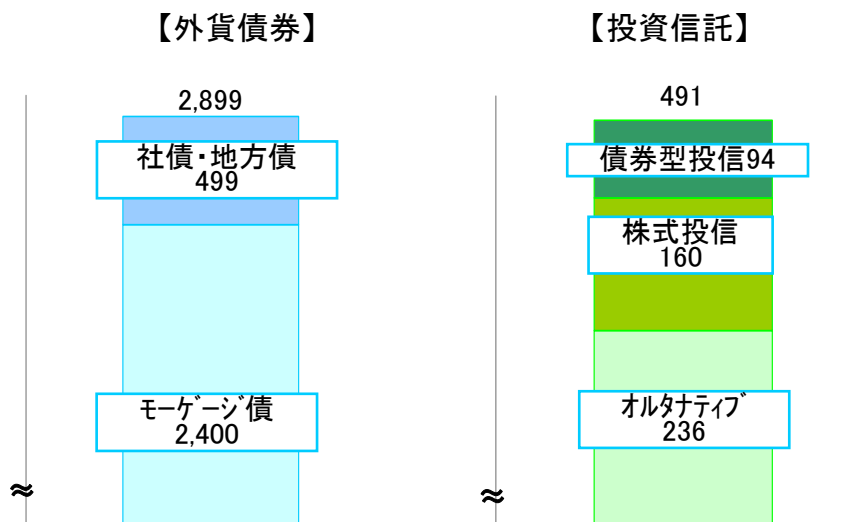
※変動債の時価評価は従来とおり市場価格で評価しています



有価証券の状況②

- サブプライム関連商品、モノライン関連商品は保有していない
- 欧米破綻金融機関の関連商品も保有していない

外貨債券および投資信託の内訳



証券化商品の内訳

	(億円)	
	2008年3月末	2008年9月末
RMBS	3,466	3,209
(うち 円貨)	835	809
(うち Alt-A)	0	0
ABS	20	15
CDO・CLO	0	0
CMBS	0	0
信託受益権※	116	106

※買入金銭債権に計上しています

モーゲージ債の内訳

(億円)

	(簿価)	20/3比	(評価損益)
ジニーメイ	2,071	△220	△26
ファニーメイ	36	△2	△1
フレディマック	293	△9	△14

オルタナティブの内訳

(億円)

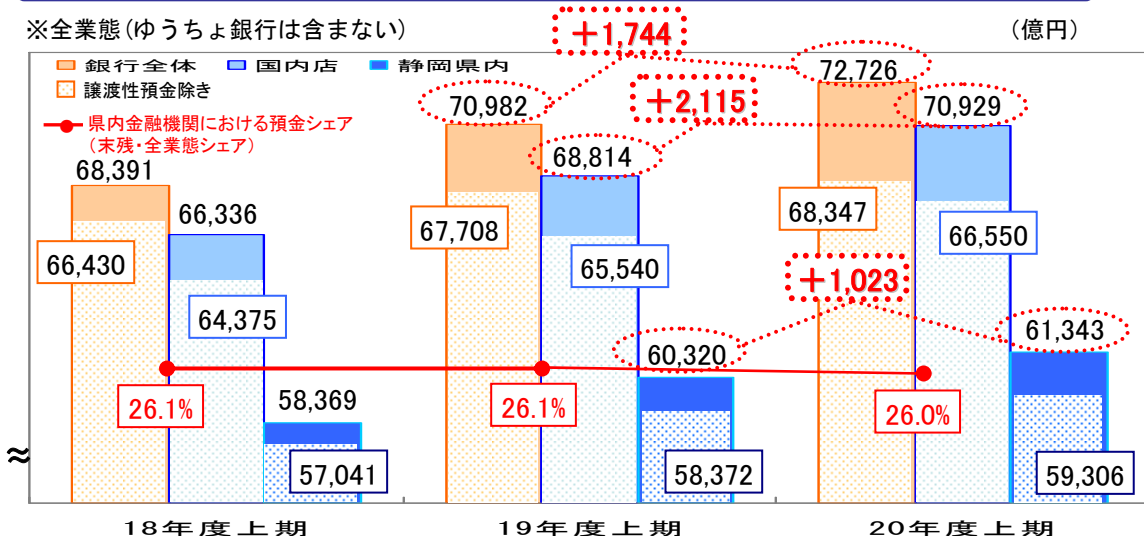
	(簿価)	20/3比	(評価損益)
グローバルマクロ	150	△71	△17
株式ロングショート	51	△70	△6
債券アービトラージ	35	△1	△5



預金等の状況

総預金等残高（平残）の推移

※全業態（ゆうちょ銀行は含まない）



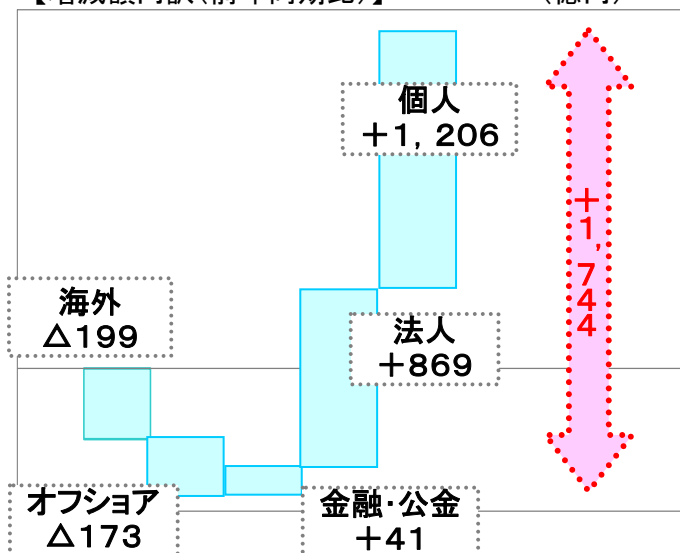
- 20年度上期の譲渡性預金を含む預金等残高（平残）は72,726億円と前年同期比+1,744億円（年率+2.5%）の増加

- ・国内営業店預金等残高70,929億円
前年同期比+2,115億円（年率+3.1%）
- ・静岡県内預金等残高61,343億円
同+1,023億円（年率+1.7%）
- ・個人預金等残高50,209億円
同+1,206億円（年率+2.5%）
- ・法人預金等残高17,648億円
同+869億円（年率+5.2%）
- ・預貸率82.5%、限界預貸率161.0%

預金等（平残）増減額の内訳

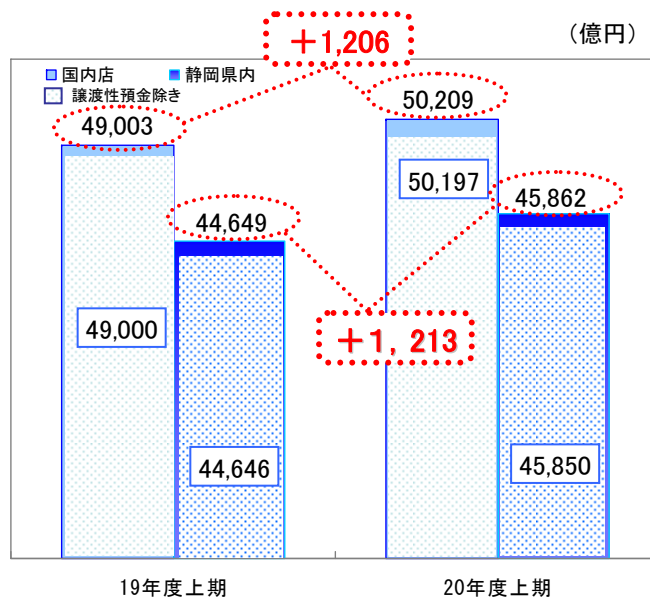
【増減額内訳（前年同期比）】

（億円）



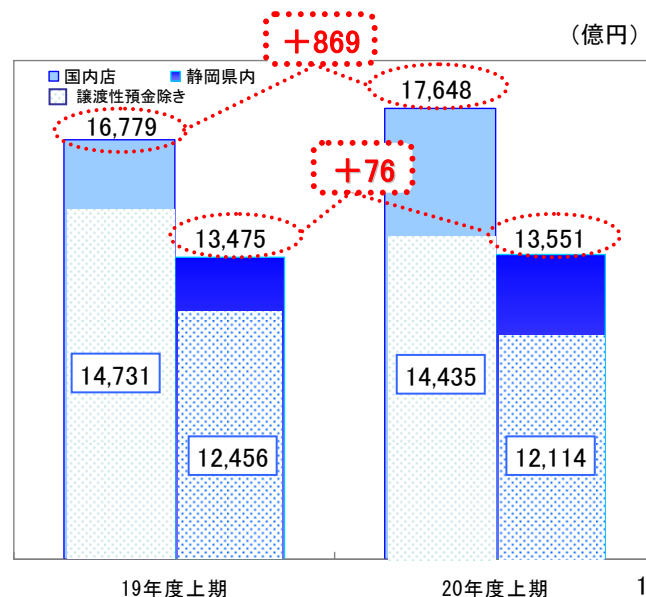
うち個人預金等残高（平残）の推移

（億円）



うち法人預金等残高（平残）の推移

（億円）

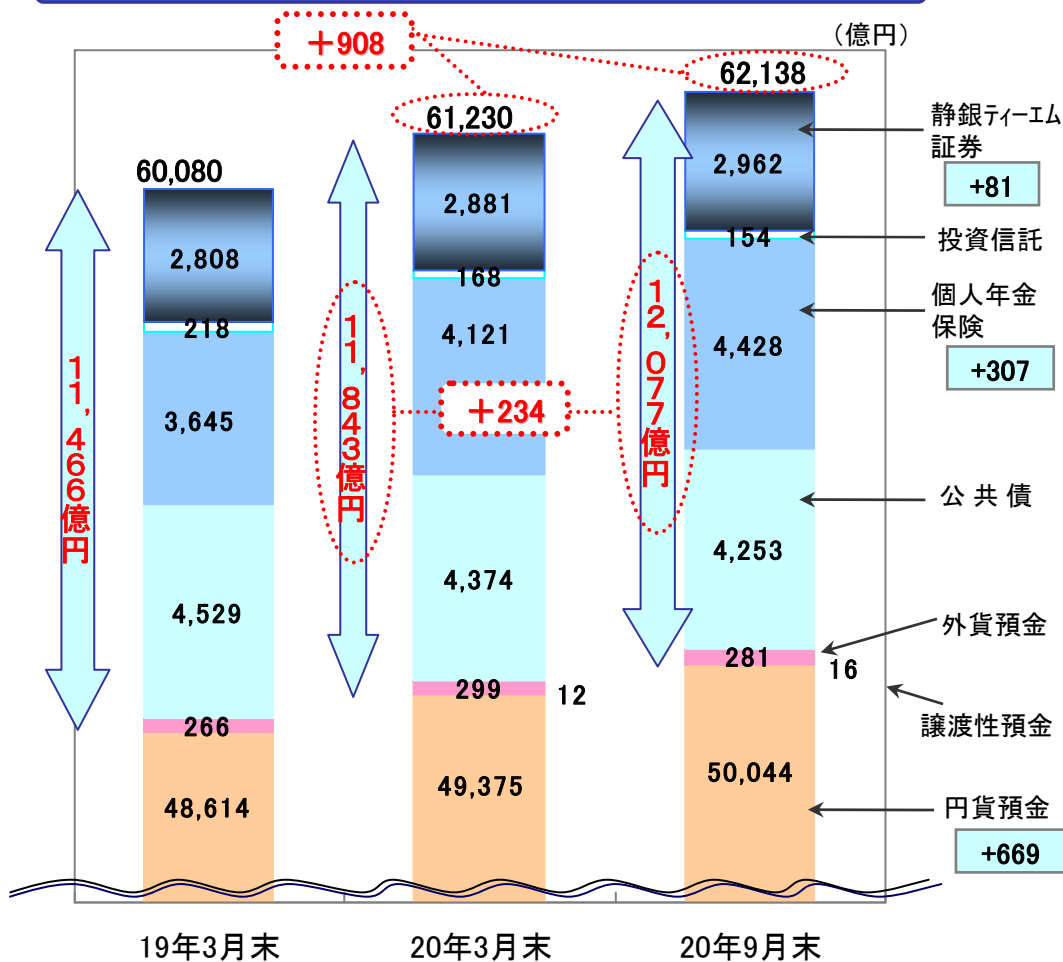




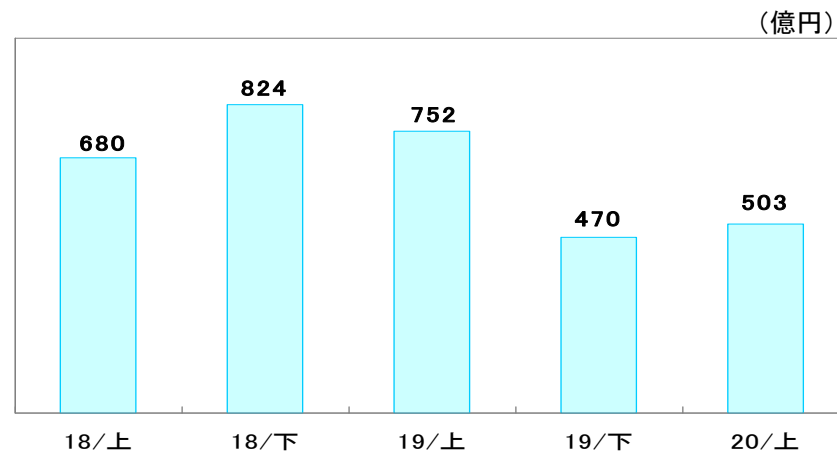
預り資産の状況

- 20年9月末の静銀ティーム証券㈱を含む個人預り資産残高は62,138億円（20年3月末比+908億円）、うち円貨預金および譲渡性預金を除く個人預り資産残高は12,077億円（同 +234億円）
- 投資信託は、市場環境の悪化により販売不振
- 保険窓販は、引き続き、個人年金を中心に高水準を維持

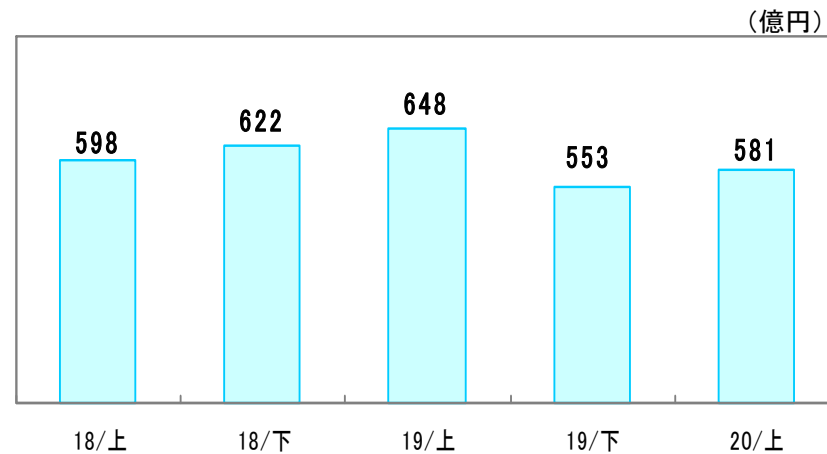
個人預り資産（末残）の推移



投資信託窓販額（静銀ティーム証券含む）の推移



保険窓販額の推移

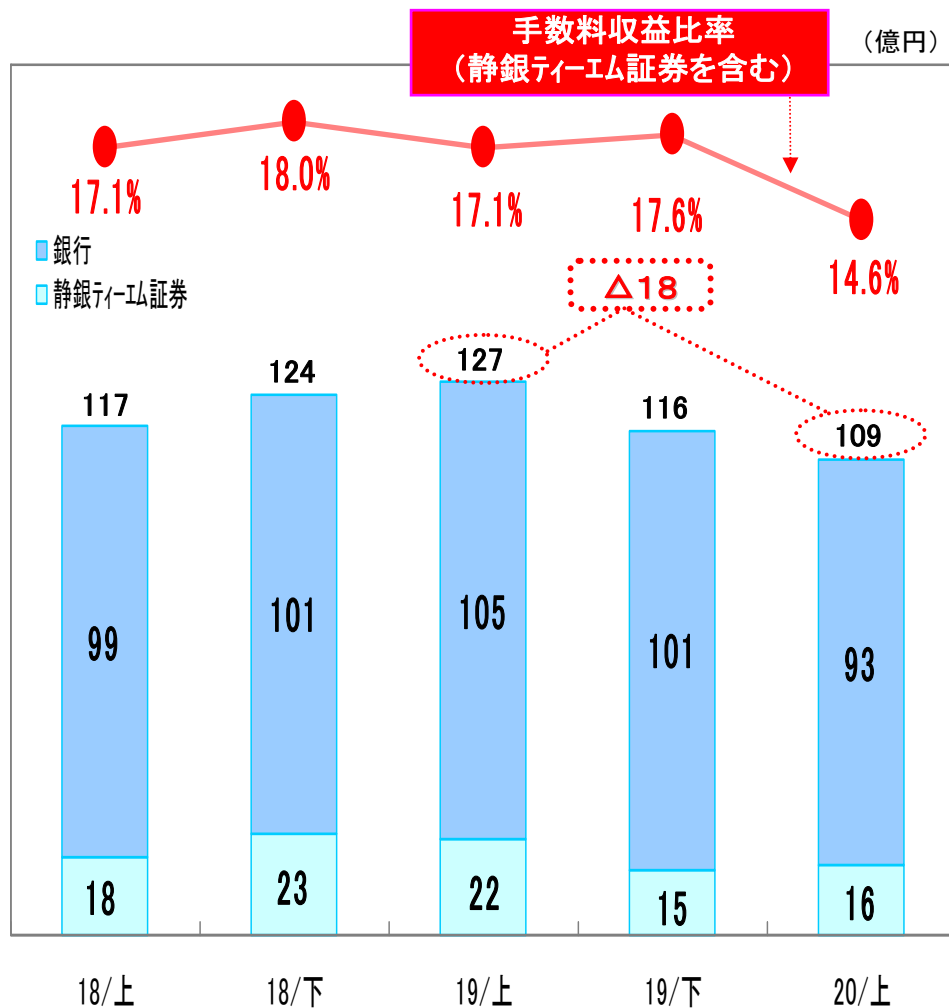




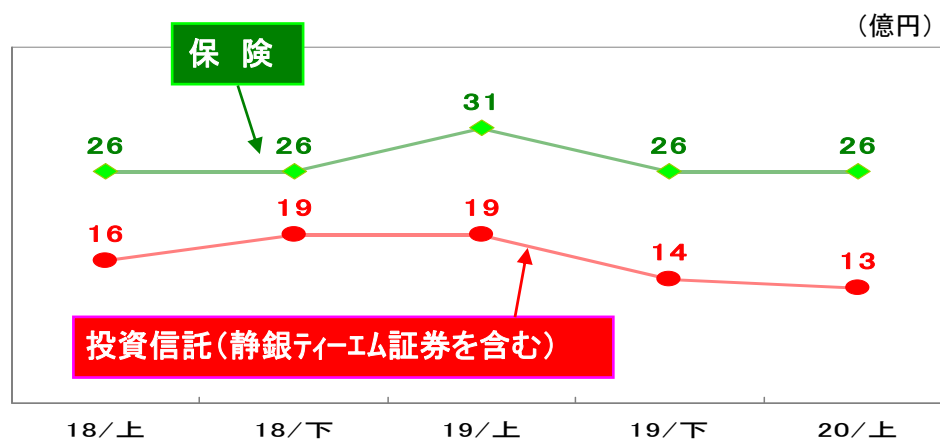
手数料収益

- 手数料収入は、投資信託、保険窓販の販売低迷により減少
- 手数料費用は、クレジットカード手数料を中心に増加

手数料収益（銀行・静銀ティーム証券）



投資信託・保険窓販の手数料収益



手数料収入・費用

〔単体〕	20年度上期	前年同期比
手数料収入	132億円	△11億円
代理事務手数料 (保険窓販手数料など)	29億円	△6億円
受入雑手数料	44億円	0億円
手数料費用	39億円	+1億円
支払雑手数料	15億円	+1億円



預貸金利回りの状況

- 20年9月の預貸金利回り差は、20年3月末比△0.03ポイントの低下

円貨貸出金・預金構成の変化（単月比較）

〔20年3月〕			〔20年9月〕		
	平残(構成比)	利回り		平残(構成比)	利回り
貸出金	5.8 (100.0)	2.04	5.9 (100.0)	2.02	
変動金利	4.2 (71.8)	2.07	4.2 (71.1)	2.03	
短プラ・新長プラ基準	2.6 (44.8)	2.52	2.6 (43.6)	2.50	
市場連動	1.5 (25.3)	1.20	1.5 (25.8)	1.18	
固定金利	1.6 (28.2)	1.96	1.7 (28.9)	1.99	

〔預貸利回り差〕

+1.77

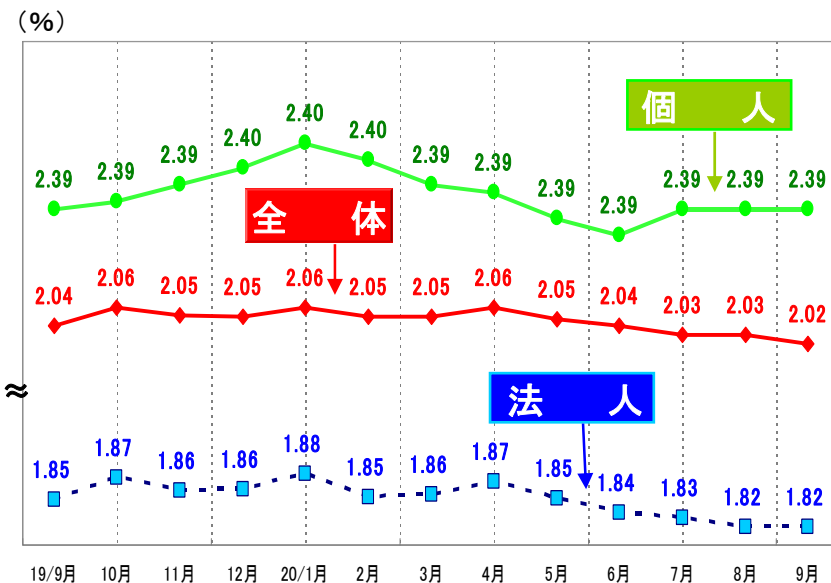
△0.03

+1.74

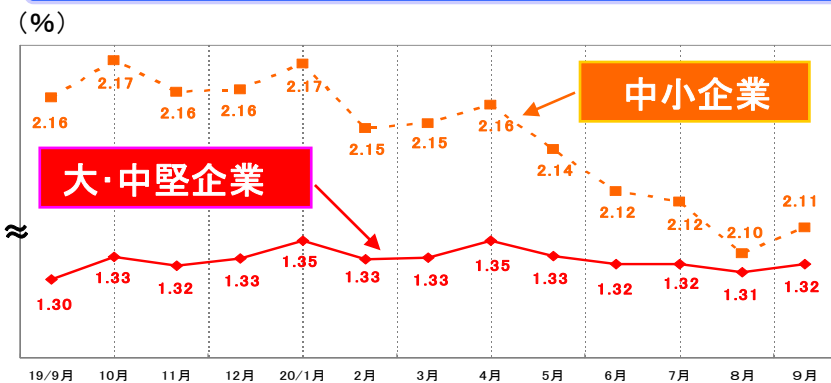
〔20年3月〕			〔20年9月〕		
	平残(構成比)	利回り		平残(構成比)	利回り
預金	7.1 (100.0)	0.27	6.9 (100.0)	0.28	
流動預金	4.0 (56.3)	0.17	3.8 (55.4)	0.17	
定期性預金	2.7 (38.7)	0.39	2.8 (41.1)	0.41	

※預金はNCDを含む

貸出金利（月中平均）の推移



うち企業規模別法人貸出金利の推移





リスク資本配賦の状況

- 20年度上期のリスク資本配賦額は5,711億円、うち信用リスク947億円、市場リスク2,975億円、オペレーショナルリスク227億円、バッファークapital等1,562億円を配賦
- リスク資本使用額は、支店営業部門495億円、資金証券部門1,794億円等

配賦原資		リスク資本 配賦額	リスク資本 使用額	リスク資本 使用率	
(億円)					
中核自己資本 5,711 (20年6月末基準)	信用リスク 947	支店営業部門	610	495	81.1%
	市場リスク 2,975	資金証券部門	2,943	1,794	61.0%
		(うち政策投資)	1,936	1,184	61.2%
		海外店	63	44	69.8%
		ALM部門	269	136	50.6%
		連結子会社	37	28	75.7%
	オペレーショナルリスク 227	オペレーショナルリスク	227	227	100.0%
	バッファー資本等 1,562	小 計	4,149	2,724	65.7%
バッファー資本等		1,562	—	—	
		合 計	5,711	2,724	47.7%

リスク資本使用額－VaR

※リスク資本使用額=VaR

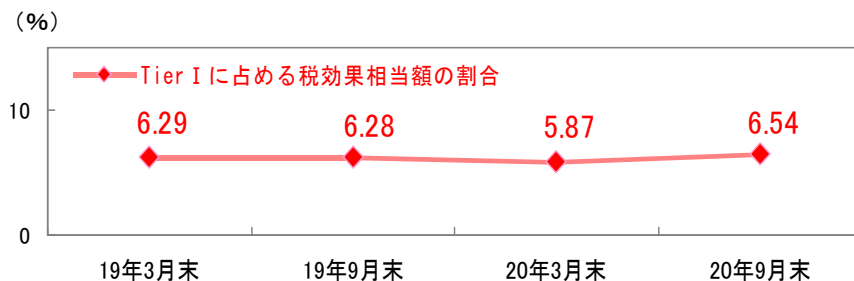
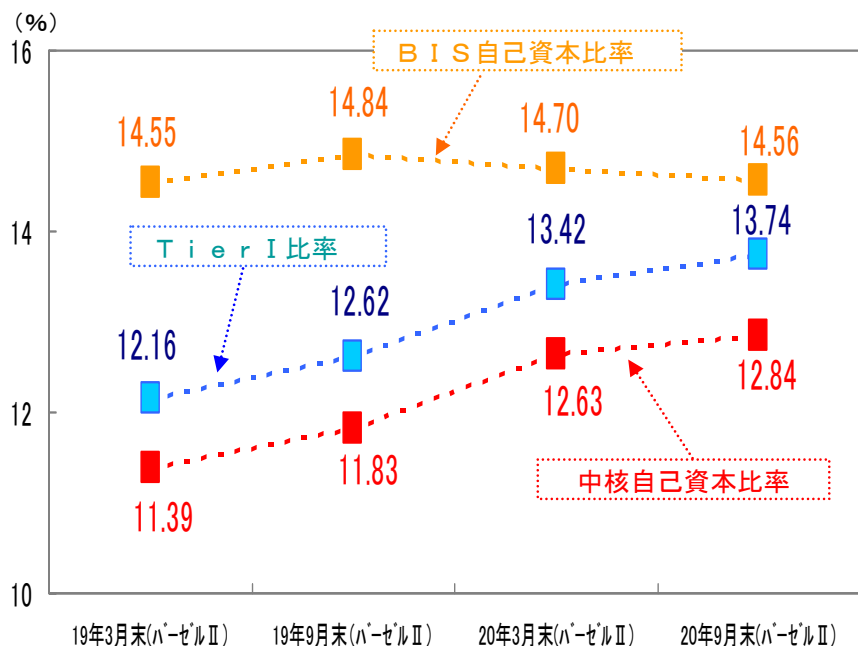
※バッファークapitalは、東海大地震等非常時への備え、
ならびにその他計量化できないリスクへの備え



自己資本比率の状況

- 20年9月末バーゼルⅡによる自己資本比率(速報)は14.56%と、20年3月末に比べ、有価証券含み益の減少によるTierⅡの減少などにより△0.14ポイントの低下
- リスク・アセット等については、株式やリスクウェイトの高い投資信託を中心に、信用リスク・アセットの額が減少したことを主因に、20年3月末に比べ△578億円の減少

BIS自己資本比率(連結ベース)



自己資本およびリスク・アセット等の推移

	(億円)				
	19年 3月末	19年 9月末	20年 3月末	20年 9月末	20年 3月末比
自 己 資 本	6,919	7,002	6,504	6,359	△145
うち Tier I	5,785	5,953	5,938	6,001	+63
うち 税 効 果 相 当 額	364	374	349	393	+44
リ ス ク ・ ア セ ッ ト 等	47,549	47,159	44,232	43,654	△578
うち 信 用 リ ス ク ・ ア セ ッ ト の 額	44,620	43,730	40,895	40,519	△376
うち マーケッ ト ・ リ ス ク 相 当 額 に 係 る 額	220	241	220	225	+5
うち オペレー シ ョ ナ ル ・ リ ス ク 相 当 額 に 係 る 額	2,709	2,786	2,837	2,911	+74

※バーゼルⅡの計算方法は、信用リスクが基礎的内部格付手法、オペレーショナルリスクが粗利益配分手法を採用

アウトライヤー比率(単体ベース)

銀行勘定の金利リスク量	Tier I + Tier II	アウトライヤー比率
697億円	6,367億円	10.9%



株主還元状況

- 平成20年度の1株当たり中間配当額は7円
- 平成20年度の1株当たり配当額（年間）については、「配当性向25%程度かつ大手地銀最高水準」の配当維持を目指し、市場動向、業績等を総合的に勘案して決定する方針のもと、本年5月の公表とおり14円を予定

配当額の推移

	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度予想
一株当たり配当額（年間）	8.50円	10.00円	13.00円	13.00円	14.00円（7.00円）
配当利回り（配当/期末株価）	0.78%	0.84%	1.03%	1.10%	—

（ ）は中間配当額

株主への利益配分の状況

（単位：億円、%）

	17年度	18年度	19年度	20年度予想	10～19年度 （10年間）
年間配当額①	71	92	91	98	601（累計）
自己株式取得額②	—	—	126	—	941（累計）
株主還元額③＝①＋②	71	92	218	98	1,542（累計）
当期純利益④	314	363	352	250	2,458（累計）
配当性向①/④×100	22.57	25.39	25.96	39.08	24.44（平均）
株主還元率③/④×100	22.57	25.39	61.82	39.08	62.73（平均）

Ⅱ 平成20年度下半期の取組み

Dream with you.



SHIZUOKA BANK

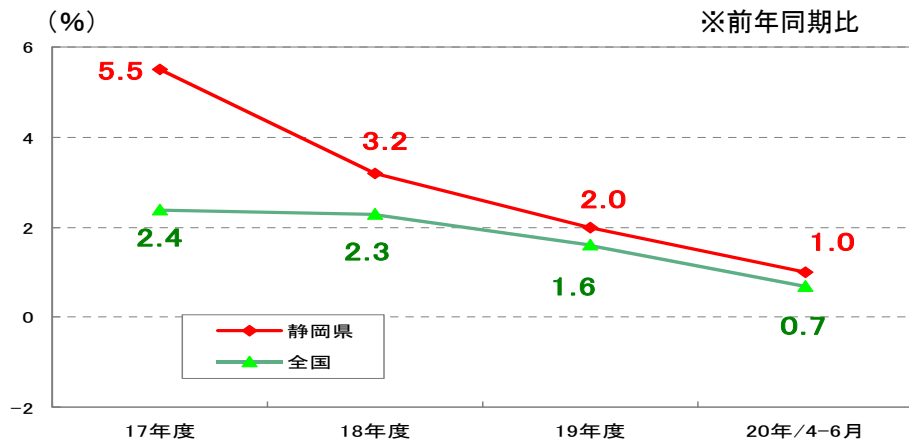
静岡銀行



静岡県の経済動向

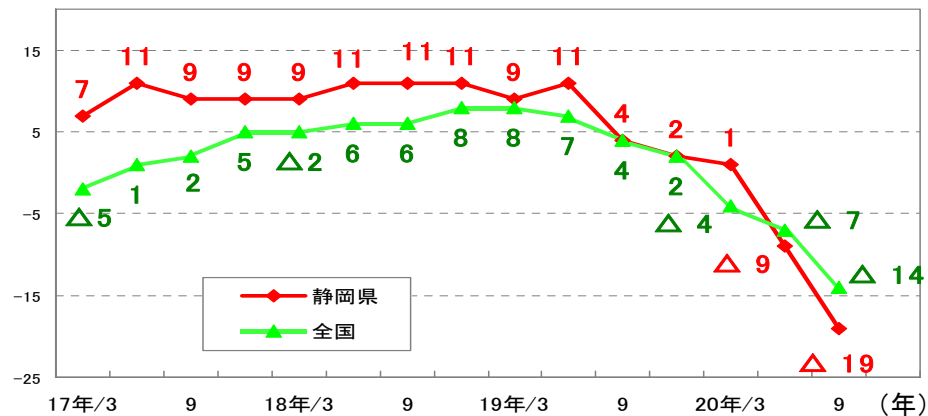
- 世界的規模の景気後退から、静岡県経済は悪化している
- 中小・零細企業を中心に、倒産件数が増加している

静岡県の実質経済成長率の推移



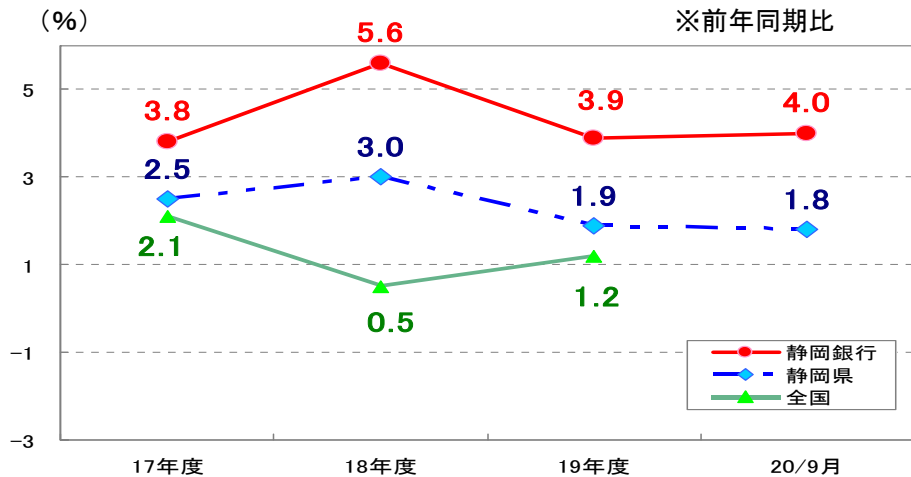
(出所) 静岡県企画部

静岡県の業況判断DIの推移



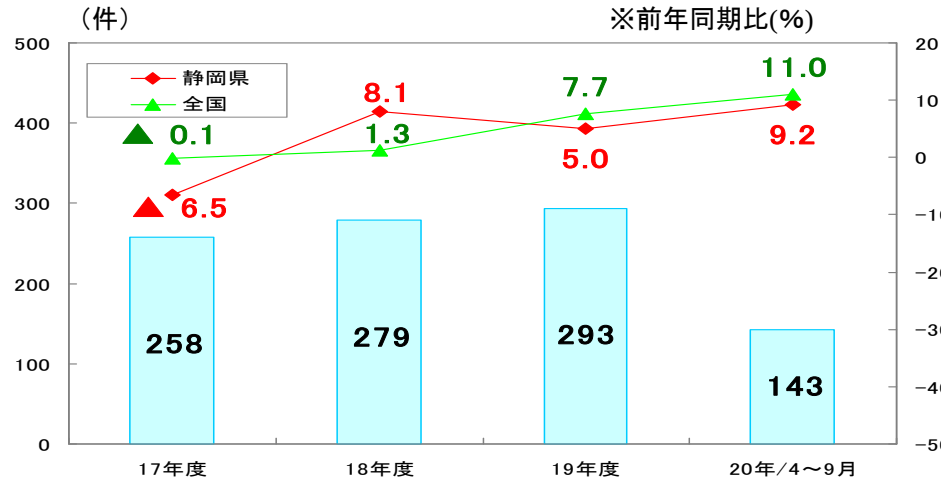
(出所) 日本銀行

静岡県の貸出金（末残）の推移



(出所) 日本銀行

静岡県の倒産件数の推移



(出所) 東京商工リサーチ



第10次中期経営計画初年度の経営目標

グループの目標指標

		〔当初計画〕	〔当初計画比〕	〔修正計画〕
収益目標	連結経常利益	690億円	△245億円	445億円
	単体の基礎的業務純益	670億円	△10億円	660億円
	連結当期純利益	400億円	△148億円	252億円
効率性指標	連結ROE (当期純利益／Tier I)	6.5%以上	△0.6%	5.9%以上
	連結ROA (当期純利益)	0.47%以上	△0.05%	0.42%以上
	連結OHR	55%程度	—	55%程度
健全性指標	連結BIS自己資本比率 (Tier I比率)	13.0%程度	—	13.0%程度

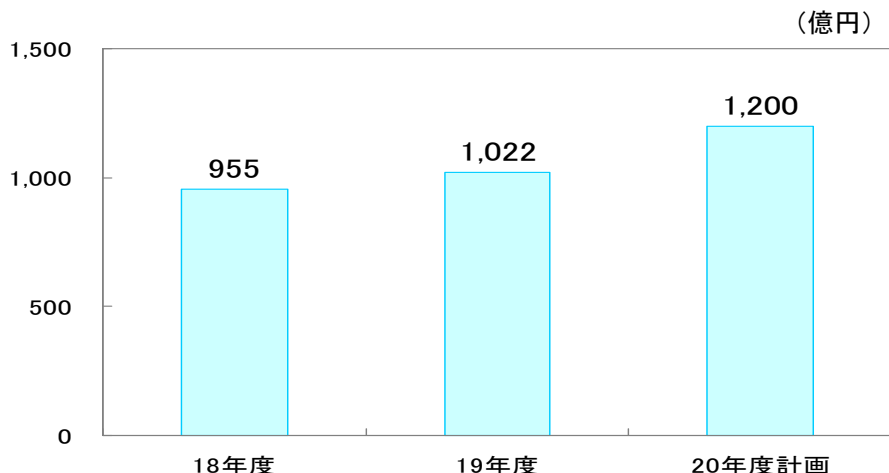
※効率性指標については20年度下半期業務計画作成時(20年9月)の計数



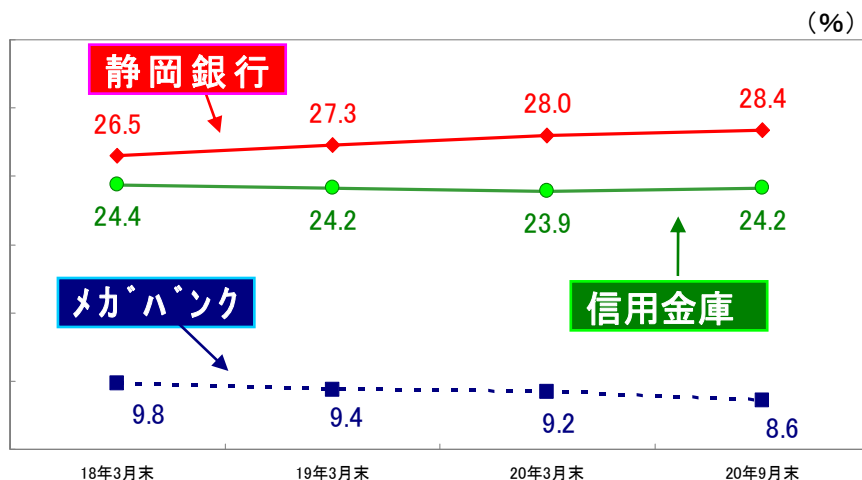
法人部門の取組み

- お取引先のライフサイクルに応じた経営課題やニーズを発掘し、高付加価値のソリューションを提供する
- 景気悪化局面においても、新規貸出先の獲得や中小企業貸出の積み上げを図る

新規貸出先の獲得推移



静岡県内貸出金シェアの推移



〔20年度修正計画〕

- ・貸出金平残増加+1,291億円
- ・円貨貸出金利息増加+17億円
- ・手数料収益獲得31億円

〔主な取組み〕

〔上期実績〕

〔下期計画〕

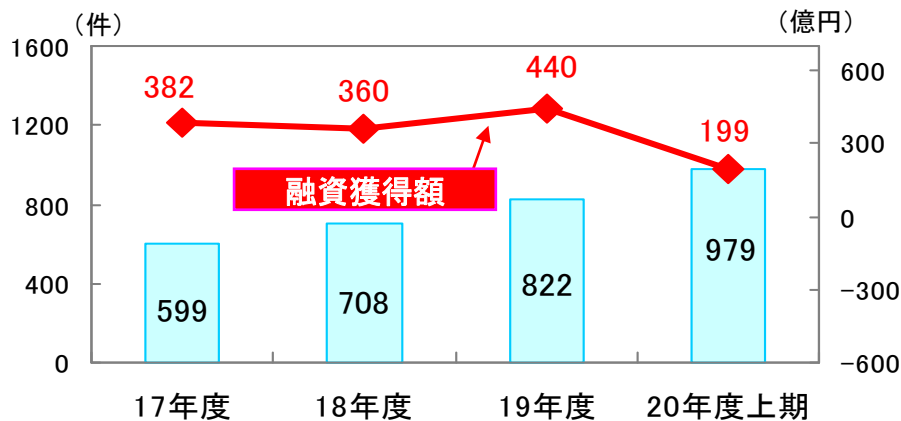
中小企業貸出の平残増加	+293億円	+455億円
新規貸出先の獲得額 (東京、名古屋、大阪を除く)	460億円	740億円
対顧客デリバティブ手数料獲得	9億円	12億円
法人円貨預金の積み上げ (平残増加)	+69億円	+73億円
外為収支	17億円	20億円
ビジネスマッチング件数	979件	年間1,200件



地域密着型金融への取組み

- ビジネスマッチング、次世代経営者塾「Shizuginship」に取組み、取引先の事業拡大・後継者育成に寄与
- 地域経済に与える影響が大きい企業を中心に各種再生手法を活用し、迅速かつ円滑な事業再生を支援

ビジネスマッチングの成約実績および融資獲得額



〔主な商談会〕

- しずぎん@gricom
- 東京ビジネスミット2008「静岡夢街道」
- 上海ビジネス商談会2008 ほか

次世代経営者塾「Shizuginship」

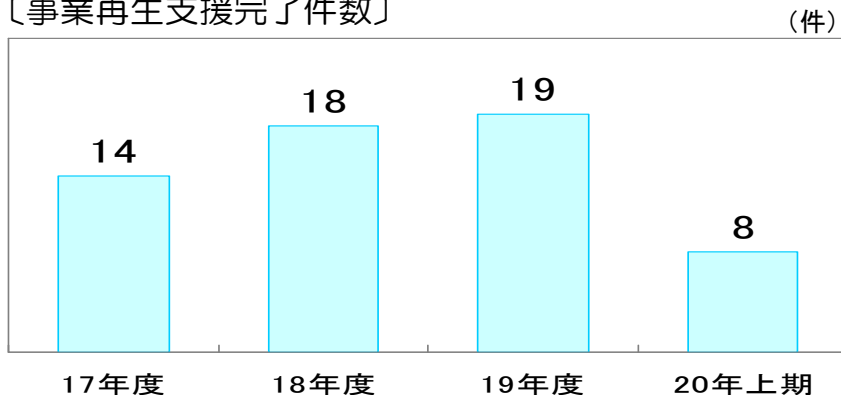
Shizuginship

- 会員数（20年9月末）
739社、1,132名
- セミナー・視察会の開催
（上半期中）
地域フォーラム2回
セミナー7回
ゼミナール8講座
視察2回
のべ参加者数1,399名



事業再生への取組み

〔事業再生支援完了件数〕



〔事業再生に活用した手法〕

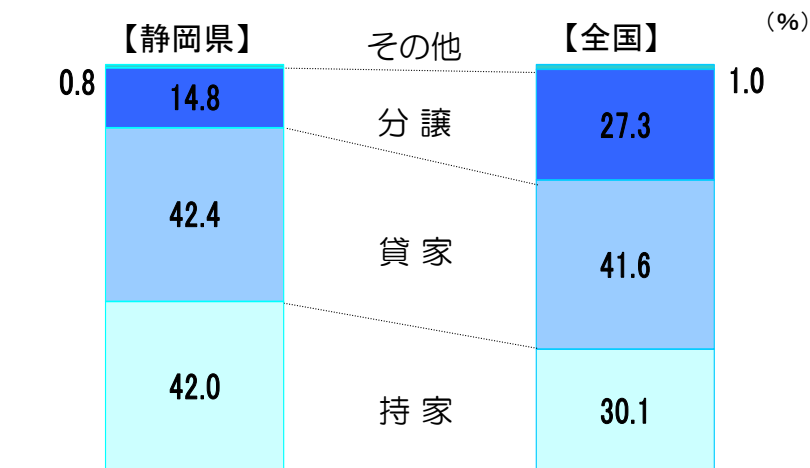
		20年度上期
全 体	(件)	8
静岡中小企業支援ファンド「スクラム」		2
再生型バルクセール		2
資産売却		2
事業譲渡・M&A		1
民事再生		1



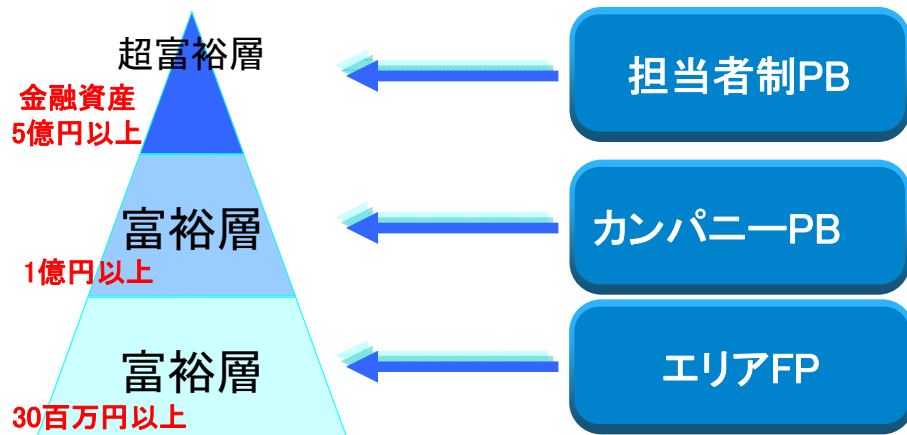
個人部門の取組み

- 個人部門は、住関連ローンを中心とした消費者ローンの積み上げにより、収益向上を図る
- 富裕層とのリレーション強化を通じ、収益拡大を目指す

住宅着工の用途別件数の構成比(19年度)



顧客セグメント別推進体制



〔20年度修正計画〕

- ・貸出金平残増加＋1,286億円
- ・円貨貸出金利息増加＋31億円
- ・預り資産販売による収益額72億円

〔主な取組み〕	〔上期実績〕	〔下期計画〕
消費者ローンの積上げ(末残増加)	＋599億円	＋625億円
住宅ローンの獲得	830億円	850億円
グループの投資信託販売額	503億円	674億円
個人年金保険販売額	581億円	630億円
個人円貨預金の積上げ(平残増加)	＋678億円	＋618億円
シニア層向け金利優遇定期預金	663億円 (当初計画400億円)	400億円
joyca会員獲得数	＋52,344件	(年間) ＋100,000件



フロント業務特化型店舗の取組み

- 構築を進めてきたフロント業務特化型店舗、少人数で運営するミニ店舗「しずぎんマイプラザ」がスタート
- 融資の営業と事務を一貫処理体制を支える新融資支援システム「S-navi」が全店稼働



▲外装・内装にコーポレートカラーのノーブルレッドを用いた帯状のサインを設置



▲ロビー入口に総合受付カウンターを設置し、フロア担当が来店客の用件に応じて誘導する



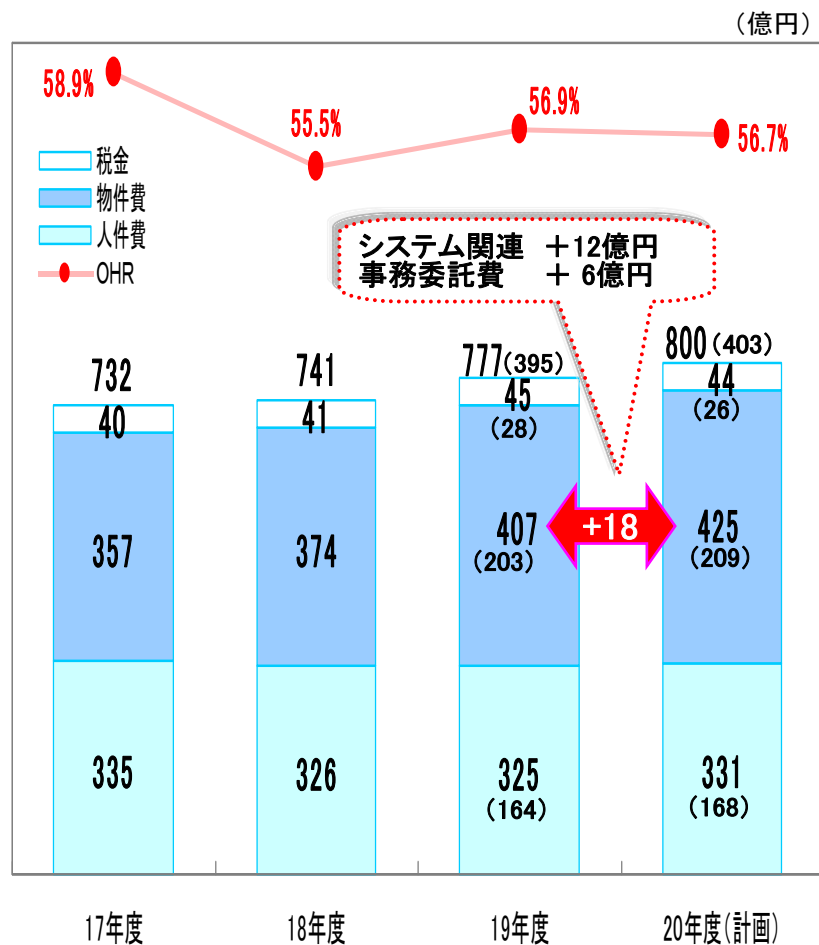
▲公共料金納付等の専用窓口を設置、ハイカウンター窓口凹凸を設け お客さまのプライバシーに配慮



経費および投資・人員計画

- 20年度経費は、営業店の生産性向上のための業務効率化、および業務推進施策の展開により増加を見込む
- OHRは55%を目安として、適切にコントロールしていく

経費およびOHRの推移



※ () は中間期の経費

投資額の推移

※キャッシュアウトベース

(億円)

〔主な投資額〕	18年度	19年度	20年上期	20年度計画
システム関連	53	127	37	86
店舗関連	41	23	25	95
合計	94	150	62	181

〔経費〕

システム関連	109	124	62	136
--------	-----	-----	----	-----

人員の推移

(人)

	20年3月末	20年9月末	増減	23年3月末計画
銀行全体	5,164	5,365	+201	4,680
うち行員	2,851	2,914	+63	2,720
営業店	4,104	4,320	+216	3,715
フロント	2,411	2,662	+251	2,890
バック・アシスト	1,693	1,658	△35	825
本部ほか	1,060	1,045	△15	965



平成20年度の業績予想

●減収となるものの、業務粗利益は拡大を見込む

・〔経常収益〕5期振り減収 ・〔業務粗利益〕5期連続増益、過去最高

●基礎的業務純益は8期連続の増益、過去最高の見込み

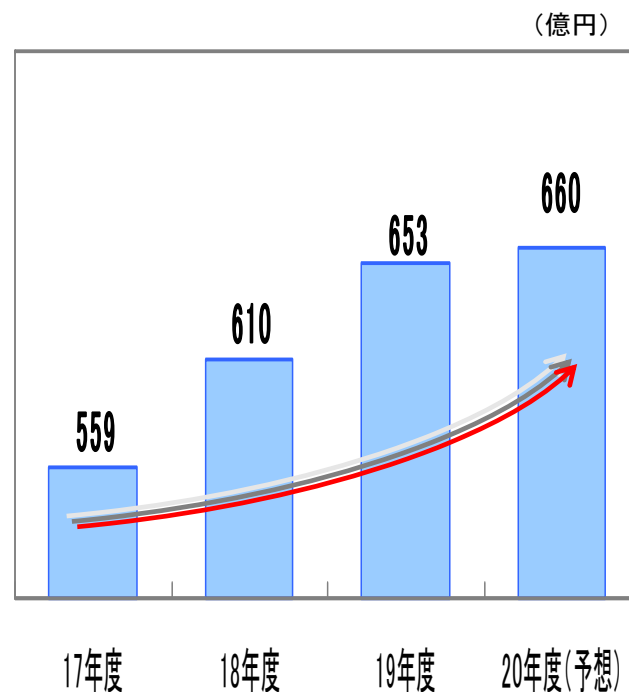
・〔業務純益〕前期並み ・〔基礎的業務純益〕8期連続増益 ・〔経常利益〕2期連続減益 ・〔当期純利益〕2期連続減益

【連結】 (億円)	19年度 実績	20年度 予想	前年度比
連結経常収益	2, 451	2, 250	△201
連結経常利益	651	445	△ 206
連結当期純利益	348	252	△ 96

【銀行単体】	19年度 実績	20年度 予想	前年度比
経常収益	2, 135	1, 980	△155
業務粗利益	1, 365	1, 410	+45
経 費 (△)	777	800	+23
基礎的業務純益	653	660	+7
一般貸倒引当金繰入額(△)	△2	20	+22
業務純益	590	590	△0
不良債権処理額 (△)	78	83	+5
株式等関係損益	103	△92	△195
経常利益	617	415	△202
当期純利益	352	250	△102

与信費用 (△)	75	103	+28
----------	----	-----	-----

基礎的業務純益推移



過去最高益

ご参考

Dream with you.



SHIZUOKA BANK

静岡銀行

静岡県経済の強み（１）

〈経済規模〉静岡県経済は「３％、１０位の経済圏」と称せられ、多くの経済指標が全国シェアで３％、都道府県別で１０位前後に集中しており、全国的にも高水準の経済力である（億円）

	平成17年度	平成18年度	平成19年度
県内総生産	164, 150	—	—
国内総生産	5, 038, 447	5, 118, 770	—
県内総生産の順位	10位	—	—
県内製造品出荷額	173, 227	182, 347	※193, 646
国内製造品出荷額	2, 958, 003	3, 148, 346	※3, 358, 542
県内製造品出荷額の順位	3位	3位	※3位

注）製造品出荷額は年ベース

※速報値

〈健全性〉静岡県内の企業倒産率は低水準にあり、健全で体力のある企業が多い。また、地公体の財政も全国的にみて健全である

	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年上期
企業倒産率（静岡県）	0. 169％	0. 254％	0. 230％	—
〃（全 国）	0. 252％	0. 285％	0. 317％	—
〃（低い方から順位）	8位	21位	7位	—
信用保証協会代位弁済率（静岡県）	1. 57％	1. 87％	1. 83％	2. 24％
〃（全 国）	2. 38％	2. 37％	2. 70％	3. 37％
〃（低い方から順位）	7位	10位	3位	9位
財務力指数（静岡県）	65. 3	69. 6	72. 9	—
〃（全 国）	42. 8	46. 4	49. 7	—
〃（順 位）	6位	6位	7位	—

注）企業倒産率は暦年ベース、それ以外は年度ベース

静岡県経済の強み（２）

〈成長性〉静岡県はニュービジネスに取り組む企業も多く新しい産業が生まれている

	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年上期
経営革新計画承認企業数(※) (静岡県)	194	233	262	130
〃 (全 国)	4, 421	5, 258	4, 736	1, 796
〃 (順 位)	7位	7位	5位	3位
新連携認定企業数(※) (静岡県)	6	5	10	1
〃 (全 国)	162	158	142	44
工場立地件数(静岡県)	85	102	124	89
〃 (全 国)	1, 544	1, 782	1, 791	826
〃 (順 位)	3位	3位	1位	1位

※ 中小企業新事業活動促進法に基づく承認・認定企業
 注) 工場立地件数は暦年ベース、それ以外は年度ベース

〈地域の雇用・企業収益〉

	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年上期
有効求人倍率 (静岡県)	1. 14倍	1. 25倍	1. 21倍	1. 00倍
〃 (全 国)	0. 95倍	1. 06倍	1. 04倍	0. 84倍
月平均賃金 (静岡県) (千円)	333	330	—	—
〃 (全 国)	335	336	—	—
〃 (順 位)	6位	8位	—	—
企業収益(前年比) (静岡県)	△0. 5%	12. 2%	△5. 6%	※△18. 3%
〃 (全 国)	+12. 3%	10. 1%	△1. 0%	※△8. 1%

注) 有効求人倍率については年度末月ベース、月平均賃金は暦年ベース、それ以外は年度ベース

※平成20年度計画

本資料には、将来の業績に関わる記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。

将来の業績は、経営環境の変化などにより、目標対比異なる可能性があることにご留意ください。